かわしんの環境活動報告書

第7号

平成25年11月発行

未来が変わる。日本が変える。 チャレンジ25

eco facility エコファシリティ 1
2 eco management エコマネジメント
eco product エコプロダクト 3
4 eco communication エココミュニケーション

川口市の花テッポウユリ（鉄砲百合）。
原産地での花期は４～６月で、茎の頂上にラッパに似た筒状の花を横向きに咲かせます。

かわしんはISO14001を平成16年5月に取得し、環境保全活動を実践しています。

感謝の心で迎える90周年

90 かわしん

CERTIFIED JQA MANAGEMENT SYSTEM ISO 14001
JQA-EM 4039
本部及び本店営業部

皆さんこんにちは

日頃より川口信用金庫をお引き立ていただき誠にありがとうございます。
当金庫は、おかげさまで来年3月に90周年を迎えますが、これも偏に皆様方の温かいご支援ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、今年の夏も猛暑日が続き、昨年同様原発事故等により電力供給不足対策として節電対応も余儀なくされ、経済全体に及ぼすマイナス影響が長期化しております。また、環境問題は温暖化のみにとどまらずオゾン層破壊・森林破壊・砂漠化・産業廃棄物の大量発生等様々な形で現れています。

この様な状況下において、当金庫では平成16年にISO14001を取得してから、毎年、「地球温暖化問題」という困難な課題を解決するために、電力使用量削減を中心に廃棄物・紙の使用削減など二酸化炭素の発生量を減少させる「環境負荷低減活動」に重点を置き活動して参りました。

地球温暖化防止活動として埼玉県や川口市が推進している「エコライフDAY」や「みどりと川の再生」を応援する植樹への参加、さいたま緑のトラスト保全地の保全作業への参加、また「環境クリーン定期預金」による埼玉県環境関連基金への寄付等、職員全員が積極的に環境と地域経済の健全な発展に取組んできましたが、10月には国土交通省から「都市緑化功労者表彰」を受賞しました。

当金庫は「感謝の心で迎える90周年」を掲げ、今後も地域金融機関として地域社会に対する社会的責任を果たし、地域経済の健全な発展と地域環境の保全に貢献して参ります。

平成25年11月

会　長　山口泰男
理事長　日下義章

昭和42年の国体開催を機に、川口市の花に

テッポウユリは初夏、白色で香りのあるラッパ状の花を横向きに咲かせます。ユリ科の多年草で、屋久島や沖縄諸島に自生しており、観賞用や園芸用に栽培されているほか、切り花としても人気があります。花言葉は「純潔、甘美」。花には明るく清純なイメージがあります。「人のごとく深夜鉄砲百合は立つ」。埼玉と所縁の深い現代俳壇の巨匠・加藤楸邨（かとう・しゅうそん、故人）は、花を咲かせる姿をこう詠んでいます。

テッポウユリが川口市の「市の花」になったのは、昭和41（1966）年のことです。翌年に埼玉国体が開催されるのを機に検討が進められ制定されました。五色桜や桜草、椿、チューリップ、水仙など多くの候補の中で、市内で広く栽培され愛されていることから決定されました。

テッポウユリの生産には、こんな逸話があります。昭和14（1939）年、花き栽培や卸売業を営んでいた風間喜助さんらが伊良部島（現・沖縄県宮古島市）に渡り、自生するテッポウユリの球根を買い付けたの始まりだとか。街を歩く時にちょっと気をつけてみてください。マンホールの蓋にテッポウユリが。今もたくさんの市民に愛されているんですね。

環境方針

Ⅰ.基本理念

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、協同組織による地域金融機関としての社会的使命と公共的使命を自覚し、全役職員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組みます。

Ⅱ.基本方針

1. 当金庫が行う事業活動が、環境に影響を及ぼす要因を的確にとらえ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を定めるとともに、定期的或いは諸条件の変化に対応し適宜レビューを行い、継続的に改善し、環境汚染の予防に取り組みます。
2. 前記事業活動が環境に影響を及ぼす要因の中で、特に、地域社会への貢献、中小企業経営再建支援、及び福祉・環境を大切にする地元金融機関を目指した活動に重点を置き、地域社会との連携を強化しつつ環境保全に取り組みます。
3. 環境に関する適用可能な法的要求事項及び業界行動指針等、その他の要求事項を順守します。
4. 一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、環境マネジメントシステムの効果をあげる為、その環境方針を全役職員、又は当金庫のために働く全ての人に周知徹底を図ります。
5. この環境方針を金庫内外に広く公開します。

平成25年度環境目標

Ⅰ. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取り組み

1. 電力の使用量
   電力使用量を1.90%削減する（18年度比）
2. 廃棄物の分別と排出
   廃棄物の分別を推進するとともに、物件費を1.90%削減し、排出量の削減を図る（18年度比）
3. 紙の使用・廃棄
   紙費用を1.90%削減する（18年度比）

Ⅱ. 環境に有益な影響を及ぼすものへの取り組み

1. 既存の環境関連金融商品の拡販
2. 新規の環境関連金融商品の企画・開発・販売
3. OA機器の効率的活用
4. コンプライアンス及び信頼性・健全性の確保
5. 顧客へのISO普及・支援
6. 各種地域貢献活動の立案及び実行
7. 環境関連のその他サービスの提供

ISO・環境関連の経歴

H15.9.1	「環境管理室」設置
H15.9.12	第1回コンサルティング開発
H15.12.3	かわしんISO関連特別融資の発売開始
H16.5.28	ISO認証取得（H16.5.28～H19.5.27）
H17.6.21	クールビズ開始（以降毎年6月～9月実施）
H17.11.1	ウォームビズ開始（以降毎年11月～3月実施）
H19.2.13	ISO更新審査（H19.5.28～H22.5.27）
H19.7.2	かわしん環境クリーン定期預金発売（第1次募集）
H19.10.1	かわしん環境活動報告書Vol.1発行
H19.10.1	かわしん環境クリーン定期預金発売（第2次募集）
H20.6.9	「チーム・マイナス6%」運動への参加
H20.6.24	（財）さいたま緑のトラスト基金へ寄付
H20.7.1	かわしん環境クリーン定期預金発売（第3次募集）
H20.11.11	かわしん環境活動報告書Vol.2発行
H21.2.16	かわしん環境クリーン定期預金発売（第4次募集）
H21.5.19	（財）さいたま緑のトラスト基金へ寄付
H21.5.19	彩の国みどりの基金へ寄付
H21.7.11	かわしん環境クリーン定期預金発売（第5次募集）
H21.11.10	かわしん環境クリーン定期預金発売（第6次募集）
H21.11.30	かわしん環境活動報告書Vol.3発行
H22.2.15	かわしん環境クリーン定期預金発売（第7次募集）
H22.3.10	ISO更新審査（H22.5.28～H25.5.27）
H22.5.19	彩の国みどりの基金へ寄付
H22.6.13	川口市エコライフデー参加
H22.6.15	かわしん環境クリーン定期預金発売（第8次募集）
H22.11.15	かわしん環境クリーン定期預金発売（第9次募集）
H22.11.30	かわしん環境活動報告書Vol.4発行
H22.12.16	彩の国みどりのサポーターズクラブ入会
H22.12.20	埼玉県植樹エントリー制度（一人1本植樹運動）へ参加
H23.1.11	かわしん環境クリーン定期預金発売（第10次募集）
H23.1.23	川口市エコライフデー参加
H23.2.27	埼玉県みどり再生課主催記念植樹参加（県立狭山自然公園）
H23.5.18	彩の国みどりの基金へ寄付
H23.6.12	川口市エコライフデー及びチャレンジエコライフ参加
H23.8.5	鳩ヶ谷市里小学校校庭にて緑化推進事業として植樹
H23.10.11	かわしん環境クリーン定期預金発売（第11次募集）
H23.12.15	かわしん環境クリーン定期預金発売（第12次募集）
H24.2.29	エコ通勤優良事業所として認証登録
H24.4.2	「環境管理室」から「社会貢献課」へ組織変更
H24.5.14	彩の国みどりの基金へ寄付
H24.5.20	埼玉県緑化推進委員会主催植樹祭参加（春日部市）
H24.7.20	埼玉県エコライフデー（夏のキャンペーン）への参加
H24.9.15・16	川口エコチャレンジプロジェクト省力・省エネ方運搬器具製作協賛
H24.10.1	かわしん環境クリーン定期預金発売（第13次募集）
H24.11.16	かわしん環境活動報告書Vol.6発行
H25.1.20	埼玉県エコライフデー（冬のキャンペーン）への参加
H25.2.1	かわしん環境クリーン定期預金発売（第14次募集）
H25.2.9	さいたま緑のトラスト保全第5号地への保全作業参加（宮代町）
H25.5.13	彩の国みどりの基金へ寄付
H25.6.9	川口市エコライフデー2013及びチャレンジエコライフ参加
H25.7.19	かわしん環境クリーン定期預金発売（第15次募集）
H25.10.30	国土交通省から「都市緑化功労者表彰」受賞

力を合わせて「みどりと川を再生」するために、ともに未来へ

川口信用金庫は創立90年を迎えます。この節目の年に、都市緑化功労者表彰を国土交通大臣からいただきました。みなさんと共に取り組んできた「彩の国みどり基金」への寄付活動などが評価されたものです。県が進める「みどりと川の再生」に私たちの力がどう役立っているのでしょうか。上田清司埼玉県知事と日下義章理事長が、埼玉新聞社の小川秀樹社長を交えて意見を交わしました。

座談会は知事室で行われました。上田知事は具体的な数値で目標を掲げて「みどりと川の再生」を推し進めています

失った緑を取り戻そう みどりと川の再生へ

日下　県の推薦を受けて、都市緑化功労者表彰を国土交通大臣よりいただくことになりました。当金庫にとって今年度は創立90周年に当たり、節目の年に大変な栄誉に浴することができ深く感謝しています。ありがとうございました。

上田　本当におめでとうございます。電車や車で荒川を渡る時にみる川口の風景は気持ちのいいものです。高層のマンションなども建っていますが、川口は広々とした空間の大きさを感じる街ですね。都市としての規模が大きい一方で、荒川に代表される川、安行地区に代表される深い緑の空間が充実しているのが大きな魅力です。

県は「川の再生」を進めています。大河川も大事ですが、特にそこに流れ込む中小河川、みなさんが暮らす地域を流れている川の再生が重要ですね。

例えば、川口市周辺の低地を流れる旧芝川では、ヘドロの除去やさまざまな水質浄化対策などを進めました。結果、魚の姿が見られるまでに再生しています。フナやコイなどだけでなく、あの辺りは海にも近いですからボラも戻ってきています。

土木工事や導水事業によってせせらぎを創り出すことは可能ですが、本質的には「みどりの再生」をきちんと進めることが重要です。本来、降った雨は山に溜まって長い時間をかけて川へ流れ出すものです。豊かできれいな水がゆっくりと流れ込むことで、川を潤し、海を潤すわけですからね。こういう良い循環を取り戻すには、川の再生とみどりの再生をセットで進める必要があります。

小川　知事は「みどりと川の再生」を重要政策に掲げて積極的に取り組まれています。11月には第37回全国育樹祭が埼玉で開かれることもあり、森や緑の再生に対する関心が高まっているように感じますね。そこで、県内の緑の現状について教えてください。

上田　私は2期目に「みどりと川の再生」を掲げました。それまでも良好な緑の空間の保全に努めていましたが、私たちは過去30年間に6500ヘクタール以上の緑を失ってしまいました。考えてみると、これは川口市よりも広い面積ですよ。

上田清司氏（埼玉県知事）

では、失った緑を取り戻すにはどうしたらいいか。私は目標を立てて数値で追いかけるのが好きでして、具体的に費用と時間を試算しました。どうやら毎年14億円ほどを投入すると8年で取り戻せそうだと分かり、「これならやれる」と確信しました。

そこで、平成20年度に「彩の国みどりの基金」を創設しました。これは自動車税の一部、1台あたり約500円を緑の保全と創出の財源に充てる仕組みです。特定財源のような考え方ですね。みなさんが運転する自動車が出す排ガスを吸収する緑を自動車税の一部で補う考え方ですから、みなさんも緑の再生と創出に参加しているわけです。この取り組みは順調に進んでいまして、8年間で6500ヘクタールの緑を必ず取り戻します。

県民の力を結集しよう 彩の国みどりの基金

小川　都市緑化功労者表彰は、これまでの川口信用金庫の取り組みの成果が評価された結果だと思います。特に、彩の国みどりの基金への寄付は毎年続けていると聞いています。これは、金融商品を通して環境に貢献する取り組みだとか。とてもユニークな取り組みだと感じますが、どんな仕組みですか。

日下　地域のために何ができるかを考え続けることが、地元の金融機関としての使命でもあります。温暖化など地球環境に対する意識の高まりから、平成16年に環境マネジメントの国際規格ISO14001の認証を取得しました。以来、さまざまな環境問題に取り組み、寄付活動もその一つです。

独自に開発した環境貢献型商品「環境クリーン定期預金」は、募集達成額の一定割合に相当する額を当金庫が負担して寄付するものです。お客さまが定期預金することで環境保全活動に参加できることが大きな特長で、大変に好評です。

平成19年に開始してこれまでに15回の募集を数え、募集金額の総額は1300億円になりました。寄付の総額は、今後の予定も含めて3200万円になります。寄付は経済的な支援で間接的とはいえ、多くのお客さまが、県が進める「みどりと川の再生」に協力できる仕組みです。

小川　商品を通じて、顧客一人ひとりの力を結集することができるんですね。川や緑の再生を一層推進するためには、多くの人が参加することが非常に重要だと思います。

多くの県民が参加できる取り組みとして、県では基金を使ってどんな取り組みを進めているのでしょうか。

上田　平成21年度からは、幼稚園や保育園の園庭の芝生化に取り組みました。県内の私立幼稚園、保育園の約半分がすでに芝生化されて、子どもたちが走り回っています。

また、ご自宅の庭やベランダなどで木を育てている方も多いですね。そこで、県は「みんなで木を植えよう」と植樹登録を呼びかけて、ホームページなどからエントリーしていただき実情を把握するなど一人一本植樹運動の機運を盛り上げています。

一人ひとりの取り組みは小さなものかもしれませんが、合わせると大きな力になっていることがよく分かります。この一人一本植樹運動では平成21年からの4年間で、約77万本にもなりました。

また、企業や団体が自主的に取り組む森づくりを支援しています。少し古いデータですが、その面積は東京都や千葉県と比べて、県内の取り組みがはるかに進んでいて一桁違います。私は日本一だと思っています。

見方を変えて、緑の募金運動で集まる金額も、実は埼玉が日本一です。私は、運動として働きかけるとその気になっていただける県民性が埼玉にはあると思っています。県がきっかけを提供するにしても、みなさんが運動に参画することが「みどりと川の再生」を推進する大きな力になります。

小川秀樹氏（埼玉新聞社代表取締役社長）

11月の全国育樹祭には皇太子殿下をお迎えします。この機会を生かしてさらに機運を高めたいですね。

「つながる」大切さ
取り組みを広げる努力

小川　国交省大臣表彰の栄誉は、知事がおっしゃる「民間の力」の成果だと思います。そこで、理事長にお聞きします。地域に密着した金融機関として川や緑の再生に積極的に関わっていく上での課題は何でしょうか。

日下　大事なことは、当金庫の取り組みをお客さまや地域社会のみなさんに理解していただくことです。例えば、環境クリーン定期預金を通したお客さまの協力がどう役立っているのか、なぜ川や緑の再生が必要なのかなどについて、できるだけ深く知っていただくことが大切だと考えています。

そこで、平成19年からは環境活動報告書を発行しています。当金庫の活動を報告するだけでは一人よがりになりがちですので、環境に関わる情報なども積極的に発信することで啓蒙・啓発に努めています。

また、さいたま緑のトラスト写真コンクールで入賞した作品をお借りして、カレンダーを毎年制作しています。身近に残っている緑や自然に気づいていただいて、その大切さを訴求する取り組みで、毎年楽しみにしているお客さまが多く大変好評です。

お客さまや地域のみなさんと問題意識をどう共有するか、当金庫の職員を含めて地域社会の中で環境を守る取り組みへの参画意識をどう育てて広げていくかが課題です。これからも努力しなければなりません。

小川　埼玉新聞社では数年前から環境キャンペーンを展開していて、その一環で森づくりにも取り組んでいます。読者に呼びかけて集めたドングリを、県内の農業高校に委託して生徒の手で苗木に育ててもらいました。植樹はキャンペーンの参画企業や団体に呼びかけて行い、「エコ贔屓（ひいき）の森」と名づけています。

私も植樹活動に参加しました。作業はなかなか本格的で大変でしたが、多くの人とつながることの意味を感じました。特に森になるのは50年、100年後だと聞くと、川や緑の再生に今取り組む意義を実感します。

昨年の植樹は残念なことに雨で中止になりましたが、川口信用金庫からも参加をいただくことなっていましたね。

日下　数年前から職員が植樹活動や保全活動に参加しています。職員自ら体験することで、ふるさとへの愛情や郷土意識の醸成につながるだろうと期待していますし、さらには当金庫が取り組むべき環境活動の次のステップを考える上で貴重な財産になるだろうと考えています。

上田　いろいろな取り組みを工夫しながら、県民のみなさんが緑の大切さに関心を持っていただくこと、それが川の再生につながります。結果、海の幸が豊かになります。こう考えると「みどりと川の再生」は埼玉県民だけでなく、東京や千葉のみなさんの問題でもあるわけですね。

流域のつながりからも「みどりと川の再生」の意義を考えていただきたいと思います。そして、多くのみなさんの参加と協力をお願いします。

小川　ありがとうございました。

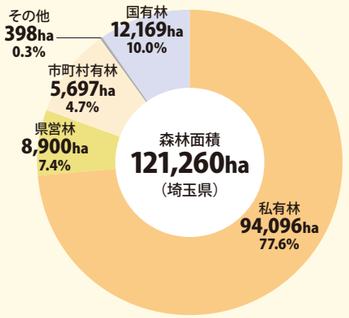
※座談会は平成25年10月28日に行いました。

日下義章（川口信用金庫理事長）

かわしんが応援する「みどりの再生」。県内の森林は、どうなっているのでしょう?

所有形態別の森林面積（埼玉県）

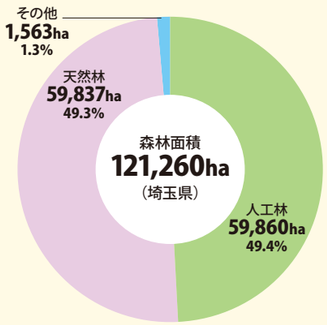
森林の所有形態は国有林と民有林に区別されます。民有林には、個人が所有する私有林のほかに県や市町村のものも含まれます。県内の民有林の9割を私有林が占めています。



※県森づくり課調べ（平成24年度末）

種類別の森林面積（埼玉県）

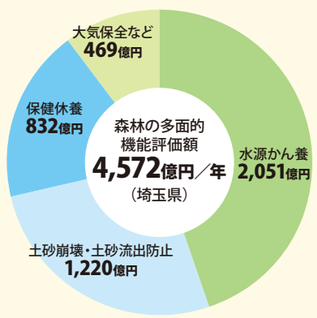
県内の森林は、広葉樹などの天然林とスギやヒノキなどの人工林が半分ずつ占めています。人工林の多くは戦後から昭和40年代に植栽されたもので、伐採時期を迎えています。



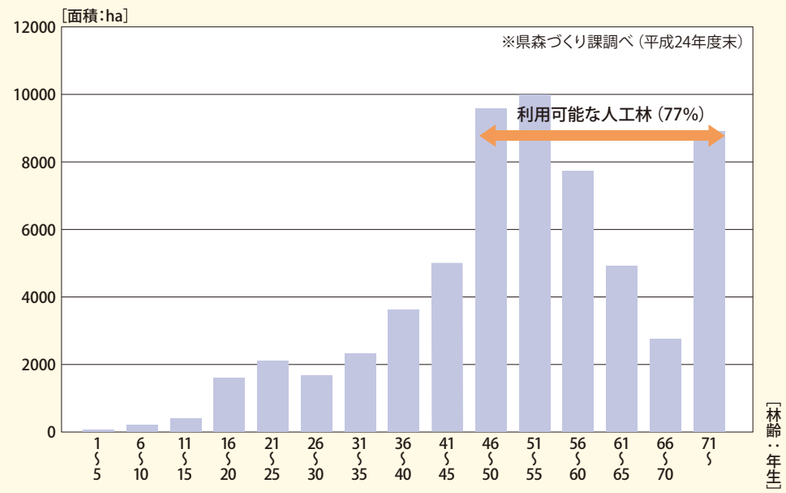
※県森づくり課調べ（平成24年度末）

森林の「多面的機能」評価額（埼玉県）

森林には水源かん養、土砂崩れの防止、保健休養、温暖化効果ガスの吸収などさまざまな働きがあります。これらの多面的機能の価値は4500億円以上との試算もあります。



※県森づくり課試算



民有林（針葉樹林）の林齢別面積

（埼玉県）

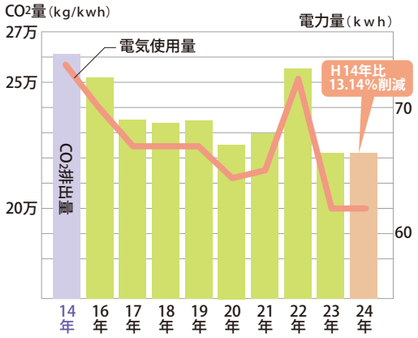
スギやヒノキは、植栽してから50年程度で利用できるようになると言われています。グラフをみると、県内民有林の針葉樹林の77%が植栽から46年以上経っていることが分かります。つまり、県内の人工林は伐採して利用できる状態なのです。最近では、県産材を利用したさまざまな製品が登場しています。私たちが選んで使うことで県内の森林を守ることができます。

事業活動・環境活動の影響を把握しています

事業活動や環境を保全する活動で投入した資源と、生み出された価値を定量的に把握することが重要です。無駄を省き、浪費を抑えて効率的に環境負荷を最小限化する努力を続けています。

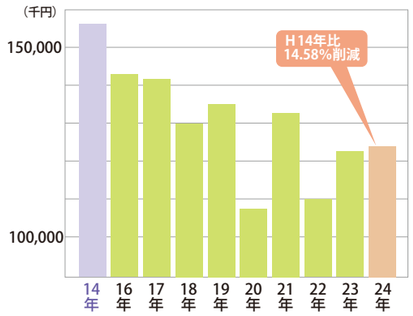
電力と CO_2 排出量の削減

電力使用量は64万626kWhでした。原発事故で節電対策を積極的に進めた前年と比較して3.18%増加しました。平成14年度比は△13.14%で、わずかに目標を達成できませんでした。集中式エアコンから分散・省エネ型へ切り替えを進めるなどさらに対策を進めます。



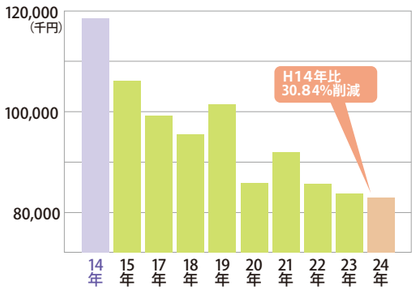
廃棄物の削減

事業活動に投入した全ての資源は消費され、最終的には廃棄されることから、物品の購入金額から廃棄物全体量を定量的に把握しています。平成24年度の目標は、平成14年度比で物件費13.0%削減。これに対して14.58%の削減率を達成しました。



紙の使用

廃棄物の全体のうち特に「紙の使用量」と「排出量」に注目しました。金額ベースで、前年比111万6000円を削減しました。また、平成14年度比では3629万5000円を削減。削減率は30.84%で、平成24年度目標(△16.0%)を大きく上回りました。



保管文書の廃棄

保管期限を過ぎた大量の文書は、セキュリティを十分に確保した上で溶解処理しています。この処理方法は、紙を断裁せず繊維がそのまま残るためリサイクルしやすいのが利点で、トイレットペーパーに再生しています。平成24年度は60万ロールを再生しました。

実施年度	廃棄文書重量(トン)	再生トイレットペーパー個数
H17年	103	103万個
H18年	36	36万個
H19年	45	45万個
H20年	40	40万個
H21年	52	52万個
H22年	40	40万個
H23年	39	39万個
H24年	60	60万個

エネルギー削減の取り組み

上尾支店は太陽光発電システムを設置して、ロビーの照明や空調に利用しています。発電量は季節や天候に左右されますが、同支店の月間電力使用量の30～40%を賄うことができます。

また、本店や他の支店では消費電力が少なく、長寿命のLED照明や省エネタイプの蛍光灯、高効率反射板「レフボ」を採用するなど省エネに努めています。

集中式エアコンを順次廃止し、分散型エアコンに切り替えているほか、クール・ビズとウォーム・ビズの実施、OA機器の効率的な活用や営業室内の不要な照明の消灯などに取り組んでいます。

高効率反射板やFHF蛍光管、LED照明の設置を進めています(本社営業部ATMコーナー)

上尾支店の屋上に設置された太陽光発電パネル。ロビーの照明や空調に利用しています

■上尾支店の電気料の推移(単位:kwh)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
太陽光発電分	1,506	1,604	1,920	2,270	2,579	2,154	2,316	2,671	1,960	1,768	1,361	1,282
通常分	2,869	3,314	3,379	2,167	2,074	1,904	2,080	2,551	2,696	2,292	2,016	2,876
計	4,375	4,918	5,299	4,437	4,653	4,058	4,396	5,222	4,656	4,060	3,377	4,158

環境マネジメントを推進しています

地域の発展と環境保全に向けて、環境マネジメントシステムを導入し、推進しています。地域社会の一員として環境問題に対する基本的な考え方を示し、具体的な活動につなげています。

全役職員が一丸となって

理事長を最高責任者とする体制の中で、環境マネジメントを推進し、本部総務部に社会貢献課を設置しています。環境管理委員会には環境担当役員、本部長及び本店営業部長が参画し、社会貢献課が事務局機能を果たしています。環境管理委員会は、「環境方針」に則った「環境目標」を毎年決定し、本店及び支店の環境の取り組みを総合的にマネジメントしています。

また、平成16年には国際的標準化機構(ISO)が定めるISO14001の認証を取得。理事長や担当役員が、その進捗状況を定期的にレビューし、PDCA(PLAN−DO−CHECK−ACT)のサイクルで、全体的な環境マネジメントを推進しています。

「チャレンジ25」キャンペーンに参加

2009年9月に開かれた国連気候変動サミットで、日本政府は温暖化効果ガスの排出量を2020年までに、1990年比で25%削減することを表明しました。政府はそれまでの「チーム・マイナス6%」から、さらなるCO_2削減に向けた「チャレンジ25」キャンペーンを展開。かわしんは、この国民運動に当初から参加して、削減行動に取り組んでいます。

未来が変わる。日本が変える。 チャレンジ25

環境意識の啓発と高揚

全職員は環境マネジメントシステム(EMS)カードを携帯しています。そこには、かわしんが掲げる「環境方針」「私たちの環境目標」「私たちの環境行動ルール」が記載されています。

職員一人ひとりが「環境方針」や「環境目標」を自覚し、日頃から意識向上に努めています

職員へ向けた環境教育の実施

本部、本店営業部への異動者、および新入職員とパート職員を対象にした環境教育を実施しています。環境マネジメントに基づいて計画的、継続的に展開することで、職員が環境についての知識を学び、環境意識を向上させます。

ISO14001の研修会。環境管理システムへの理解を深めます

販促品でも環境意識の啓発

セールプロモーションにも環境の視点を取り入れています。エコタオル、さとうきびを原料にしたポケットティッシュ、オーガニック素材を使用した台所洗剤、リサイクル食器などを採用しました。消費者としての目線からも環境意識の啓発に努めています。

サトウキビから作ったティッシュなど、環境に配慮した製品を販促品に採用しています

エコ プロダクト

環境保全へ向けた商品やサービスを提供しています

eco product

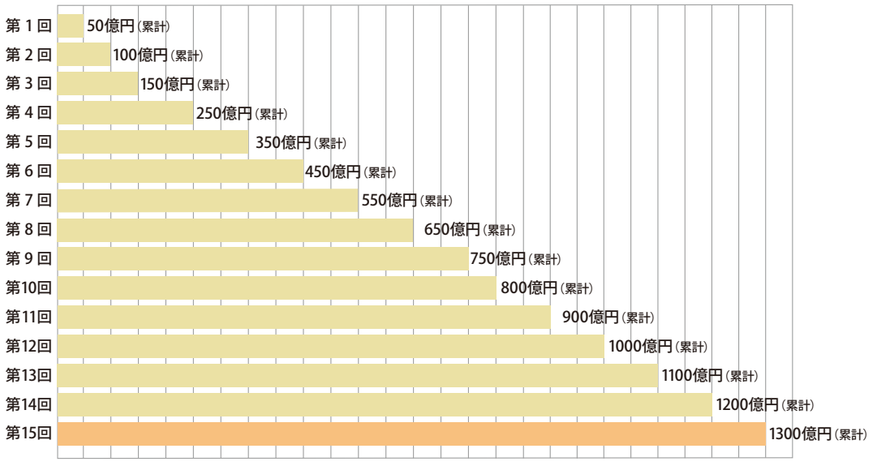
お客さまから満足、安心、信頼を得られる金融商品やサービスを提供することが、かわしんの基本です。全職員がお客さまの声に耳を傾け、お客さまと共に環境負荷低減に向かうことを心がけています。

環境クリーン定期預金

環境クリーン定期預金は、募集達成総額の一定割合に相当する額をかわしんが負担し、環境保護のために寄付するものです。第14次（平成25年2月）、第15次（平成25年7月）の募集を行い、募集金額はそれぞれ100億円でした。

環境関連商品によって環境保護活動を経済的に支援するだけでなく、募集パンフレットに「さいたま緑のトラスト写真コンクール」の入賞作品を採用するなど、商品の企画開発を通じて環境保護団体との連携も深めています。

募集実績（累計）



エコライフを支援する リフォーム・住宅のローン

自然エネルギー利用や省エネルギー対策など、太陽光発電設備設置、もしくはエコ仕様設備設置、耐震工事などリフォーム（増改築・修繕）資金、バリアフリーリフォーム資金および、それに伴う諸費用の取扱いをしております。

環境関連の融資やローン

ISO9001やISO14001の認証取得を支援する特別融資を企画・開発しました。取得にかかわる運転資金や設備資金などにご利用いただけます。また、エコカー購入などに利用できる固定金利型のカーライフプラン・エコカー資金も好評でした。

エコ コミュニケーション

環境への価値観を共有する取り組みを進めています

eco communication

かわしんが環境に対して何を考え、何をしようとしているのかを地域社会へ伝え、地域のみなさんがかわしんへ何を望んでいるかを知ること。地域社会とのコミュニケーションを進めています。

ECO EYES

国交大臣の感謝状

都市緑化功労者　国交大臣から感謝状

これまでの取り組みが評価され、「平成25年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」を受賞しました。

表彰式は10月30日に日本消防会館（東京都港区）で行われ、日下理事長が出席しました。式では、国交大臣の感謝状が全国15名の個人と3団体へ贈呈されました。

受賞団体のうち民間事業者はかわしんのみで、「彩の国みどりの基金」への寄付活動などが高く評価されたものです。
創立90周年の節目に国交大臣表彰の栄誉に輝き、今後の責任の重さに身が引き締まります。

挨拶する太田昭宏国土交通大臣

表彰式には日下理事長が出席

壇上では代表者が拝受しました

地域社会との連携を生かして

環境保全や保護活動を支援する環境関連の商品やサービスを通して、埼玉県をはじめさまざまな団体との協力関係が深まっています。

そのつながりを生かして、埼玉県と公益財団法人さいたま緑のトラスト協会が主催する写真コンクールの入賞作品をカレンダーに毎年採用しています。

カレンダーは2万5000部を作成。お客さまへ配布することで緑のトラスト運動を支援し、身近に残る貴重な自然環境への関心を高め、保全・保護する必要性を訴えました。

2014年版には「身近な緑の部」の最優秀賞作品を採用。遠方にさいたま新都心を望むさいたま市の自然を撮影した作品です。

埼玉県の「みどりと川の再生」を応援

環境クリーン定期預金を通じて、彩の国みどりの基金へ毎年寄付を行い、埼玉県が推進する「みどりと川の再生」事業を積極的に応援しています。

今年は5月13日に、埼玉県庁を訪れて500万円を寄付しました。

感謝状を手に上田知事を囲んで、山口会長（左）と熊木常務

地域社会の一員として

人的な経営資源を活用して、事業以外でも地域社会に貢献しています。職員一人ひとりが地域社会の一員としての自覚を持ち、清掃活動や地元のお祭り、植樹活動などの地域活動やボランティア活動に参加しています。

さいたま緑のトラスト保全地（宮代町）で行われた活動に職員が参加。雑木林の保全作業に汗を流しました（平成25年2月）

かわしんの環境関連商品

かわしんISO関連特別融資

1. ご利用いただける方… 当金庫と継続して6ヶ月以上与信取引がある方
2. ご融資金額…… 1,000万円以内
3. ご融資期間…… 運転資金5年以内（据置6ヶ月以内）
   設備資金7年以内（据置12ヶ月以内）
4. お使いみち…… ISO9001及び14001に係わる円転及び設備資金
5. ご返済方法…… 元金均等分割返済　利息先取
6. 保証人…… 代表者は連帯保証人
7. 担保…… 原則不要であるが、一部協議により必要となる場合があります
8. 金利…… 変動金利扱い基準金利は長プラ＋0.7%とします

その他の環境関連融資

●環境みらい資金（県制度資金）…公害防止施設・快適な生活環境の創造・地球温暖化対策等
●安心リフォームプラン「一家団欒（だんらん）」

本店建替えに伴う店舗移転のお知らせ

平成26年1月14日に仮店舗へ移転し、平成28年春に竣工を予定しております。
ご迷惑・ご不便をお掛け致しますが、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

本店営業部　〒332−8686　川口市栄町3丁目14番14号
移転先住所　TEL048-253-3333

カーライフプラン・エコカー（環境自動車）資金

お取扱期間：平成25年4月1日（月）～平成26年3月31日（月）

かわしんは環境保護を応援します

本金利プラン基準金利 年2.7%（固定金利）
保証料別途

○エコカー購入（低排出ガス適合車［四ツ星以上］）・ハイブリッド車・電気自動車購入資金

年1.8%（固定金利）
保証料別途

○「ゴールド免許」をお持ちの方
○「パパ・ママ優待カード」をお持ちの方
※いずれかに該当する方

年2.4%（固定金利）
保証料別途

本金利プランの対象となる方　かわしんのカードローンをお持ちの方（新規可）

1. ご利用いただける方
   ●当金庫の営業地区に居住又は勤務されている方
   ●満20歳以上で継続して安定収入がある方
   ●一般社団法人しんきん保証基金の保証が得られる方
2. ご融資金額…… 10万円以上500万円以内（1万円単位）
3. ご融資期間…… 5年以内
4. お使いみち……
   ●自動車購入・二輪車購入（ただし、営業用車を除く）
   ●車検、修理、運転免許取得資金等、および同資金使途の旧債返済資金で当金庫より支払先への振込ができるもの
5. ご返済方法…… 毎月元金または元利金等返済、ボーナス併用返済もできます。ただし、ボーナス返済部分の元金は、ご融資額の50%までとします
6. 保証人…… 一般社団法人しんきん保証基金が保証しますので必要ありません
7. 保証料…… 別途、保証料（0.78%）を一括でお支払いいただきます

ローンの詳しい内容、または現在のご融資利率やご返済の試算については当金庫の本支店にお問い合せください。

PRINTED WITH SOYINK
この冊子は環境にやさしい大豆油インクを使用しています。

感謝の心で迎える90周年 かわしん
川口信用金庫
http://www.shinkin.co.jp/ksb/
〒332-8686 埼玉県川口市栄町3丁目9番3号
TEL048-253-3333　FAX048-254-2665

CERTIFIED JQA MANAGEMENT SYSTEM ISO 14001
JQA-EM 4039
本部及び本店営業部